

ん、そこで産湯うぶゆの稻荷さんへ行かうと、産湯へ出掛けて見ますと、イヤモウ桃花の盛りで、彼方にも此方にも一面の掛茶屋が出まして、花を見やうと思ふても、怪しい女が袖を引張つたり、餘り殺風景過ぎて、此處に見て居る氣にもなりまへんので、ブラ／＼と南へさしてやつて來ますと、思はず紅葉寺へ這入つて來ました。すると紅葉がチヨイ／＼紅葉しかけてる。こりや妙ぢや、マア兎も角も此處で一猪口飲まうぢやないかと腰をかけて紅葉を見ながら、二三杯引掛けて、南へ指して抜けましたら、天王寺の東門を内らへ這入つて見ると、何うも甚い雜鬧ざうなう、何で斯う賑合ふのんだすと尋ねると、彼岸で今日は中日ぢやといふ。それから聖徳太子様へ御參詣をして、引導鐘を撞いたり、經木へ戒名を書いて龜の池へ投げ込んだりして、南へサク／＼やつて來ると、今日は宵庚申よいこうじんやといふので、人が夥おびただしいので、お參詣をして、茶臼山を見がてらに、

は住吉祭か、それで堺の濱も賑やかな、堺へ行て、川芳で一杯飲まうか、茅海樓へ行かうか、一力が甚う勉強する依つてに、一力へ行くと、最う二階は座る處がないと云ふので三階へ昇りました。西を見渡すと、淡路島が一目に見へる。海の潮が少とも無い、スツカリと引潮で友仙緋縮緬ひじゆもんの裾すそをした女が仰山海へ這入つてゐる。姐はん今日は甚い潮がないナと云ふと、今日は潮干の蛤を取りに來てはります。ほんに然うや、沖に船が澤山有るのはと聞くと、此頃は鯨はげがよう釣れますので、そんなら私も網船を一艘こしらへて貰ふて、その船で木津川の千本松へ來ると、明石屋の名物蜆汁で、チヨット一合飲んで居ると、今日は月見にお越の方が澤山おます依つて、何卒御緩容ごくようとお遊びと云ふが、そんな事はして居られぬと船に乗つて、天保山の方へ出て、尻無川へドツと這入つて、甚兵衛の小屋へ上つて豆腐滓汁かぢらじゆで一ト銚子飲んで、兩側の堤の檻かごが着色いて

雲水で普茶でチヨット一盞飲みませうか、精進物も面白からうと、雲水へ這入つて二人で一人前取つて、残りの瓢箪の酒をコロツと開けました。それから聖天山の方へ出ましたので、聖天山へ行て見ると、櫻花が今盛りで、此奴は飲めるナと、それから千成亭でチヨット一ト鉢誂へて、櫻を見て飲んで居ましたが、又ブラ／＼と阿部野街道へ出ますと、人が南へドン／＼行くので不思議に思ふて聞いてみると、今日は年越で吾孫子の觀音さんへお參詣しますね、ハア然うか宅で蒸し麥を買とくもん迂濶うがしてた、マア兎も角も吾孫子の觀音様へお參りしやうと、參詣して住吉へ戻つて來ると鎧兜よろひかぶまの人が居るやら、絹笠を被つて居る婦人が居る。美しい女が澤山居る。成程今日は御田か、田植の式やナと、此の田植の式を見て、四社へ參詣をして石の鳥居を出ると、南へ人がドヤ／＼と行くので、何事やと尋ねると、今日は堺の大濱は夜市やと、ア、明日

るので、其處で船を斷つて、堤をブラ／＼戻つて來て雜魚場の初市を見て、安治川橋をば向ふへ渡つて、逆櫓の松を背後にして野田へ出ました。野田の影藤が盛りゆへ、それを見て、此處まで來た依つてに、三番の萩を見て來やう。十三の杜鵑つばき花も盛りであらう。十三の土産に焼餅を買うて、浦江の聖天さんの杜若かづつばたを見てそれから大融寺の藤浪亭で一杯引掛け、東へさして行て十丁目筋へ出ると、とうない賑やかな、今日は初天神や、天満の天神さんへ參詣して、それから鶴満寺の枝垂櫻を見て、樋の口の櫻を見て源八の渡しで向へ渡つて、諸魚汁もろこで、一杯飲んで、ブラ／＼櫻の宮へ出ました。が、イヤ何うも造幣局櫻の宮は眞盛り、堤から河岸へかけて茶店で、眞紅な襦袢を着て踊つたり、跳たはねり、太鼓を打いたり、岩田屋の名物の鯛の揚物で一杯やろうか、寧ろ網彦へ行て鰻でも焼かして飲もか、鮎宇へ行かうか、未だ腹も空つて居ぬ。最う少し行て網